

検査のパレット

今回は、甲状腺の病気についてお話したいと思います。

はじめに解剖学的なお話からです。甲状腺は頸部の全面に位置するH型（蝶が羽を広げた様な形）の形をした臓器です。重量は15～20g程度で上下に3～5cm程度の長さを有します。また、甲状腺の特徴として、体の調子を調節しているホルモンという物質を分泌しています。

甲状腺の病気には主に

■甲状腺機能中毒（亢進）症

■甲状腺機能低下症

■甲状腺腫瘍

などがあります。

甲状腺機能中毒（亢進）症と甲状腺機能低下症はホルモンの分泌量が関与しており、いずれにおいても男性より女性に多い病気です。病気の詳しい説明は次回お話しします。

これらの診断には血液検査や超音波やCT、MRIなどの画像診断、細胞診が行われます。当院で行っている血液検査には以下の検査項目があります。

◆TSH(甲状腺刺激ホルモン)

脳の下垂体という部位から分泌されるホルモンで、甲状腺ホルモンを調整する働きをしています。甲状腺機能低下症で高値になり、甲状腺機能亢進症で低値となります。

◆Free T3 (遊離トリヨードサイロニン)、Free T4 (遊離サイロキシン)

甲状腺から分泌されるホルモンで、甲状腺機能亢進症で高値、甲状腺機能低下症で低値となります。

このほかに外注検査でTSH受容体抗体やTg抗体、抗TP0抗体などを行っています。

尚、当院では2022年3月26日よりTSHについては国際臨床化学連合(IFCC)という組織が推奨している標準化された試薬に変更しました。これにより共通したTSHの基準範囲やガイドラインに従った、診断や治療が行えます。

次回は、甲状腺の病気に関連する超音波検査（画像診断）についてお話しします。

参考文献：・疾患別検査ガイド 甲状腺疾患 2016

一般社団法人広島市医師会臨床検査センター発行物

文責 永田 拓生